

2012年度第4回執行理事会議事録

期 日：2012年10月13日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：石渡会長 ウォリス副会長 齋藤常務理事 井龍
坂口 内藤 西 平田星 松田 山路 山本（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：渡部副会長 伊藤 高木 中澤
保柳 山口

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者12名，委任状
6名，合計18名の出席。

I 審議事項

*前回の議事録を確認した。

1. 年会関係（星）

1) 大会業務の再検討

業務委託業者の選定や口頭発表データのPCセンターへの集中管理方式など個々のサービスを見直すことで経費削減に努めたい旨提案があった。大会運営全体に影響するので委託業者選定も含めて，行事委員会および実行委員会とよく検討する。

2) 巡検を他学協会と連携する件

巡検を関連他学協会に協賛を呼びかけて巡検参加者増を図りたいと提案があり，全コースを対象として了承された。巡検は大会の一部であるので，巡検のみに参加する場合も，巡検参加者用の大会登録費（通常の参加登録費から2500円引き，講演要旨抜き，年会会場への入場不可）を負担して頂く。予約に関しては正会員も協賛学協会会員も対等で優先予約等は行わない。

2. 地質学雑誌編集関係（山路）

1) 地質学雑誌編集出版規則（2011.6.1制定）の名称変更
現行の規則名称「地質学雑誌編集出版規則」では，投稿者が本規則を投稿規則ではないとして見落とす可能性があるため，規則名称に「投稿」の文言を加え，「地質学雑誌投稿編集出版規則」としたい旨提案があり，他の規則中にある修正も確認したうえで，12月の理事会に提案することが了承された。

2) 通常号掲載論文のPDF早期公開

現在特集号論文のみは学会HP（会員のページ）から受理後ただちに公開されているが（本年6月号から），通常号論文についても同様に早期公開を行いたいと提案され，12月の理事会に提案することが了承された。

3) 未公開「口絵」のJ-STAGE公開について

JSTの事業区分および搭載基準の変更などにより，一部の「口絵」，110巻1号（04年1月）～118巻9号（12年9月）が公開されていないことが判明した。口絵も掲載論文であり，欠損期間の口絵全てを公開することとした。公開に必要なデータ処理費用の支出を了承した。

4) 地質学雑誌掲載論文の受賞促進について

編集委員会は，各賞の対象に地質学雑誌掲載論文がより多く選ばれて欲しいと希望している。学会の役員一同積極的に推薦を行うことで対応することとなった。

3. その他

1) 原子力規制委員会より，原発敷地内の破砕帯調査の調査団員候補者の推薦依頼があった。これに対して会長陣が下記10名の会員を候補として理事会に報告し，被推薦者の了解を得て推薦した。調査団メンバーの最終決定は原子力規制委員会による。

栗田泰夫（産総研），石山達也（東大地震研），大谷具幸（岐阜大），岡田篤正（立命館大），佐藤比呂志（東大地震研），重松紀生（産総研），竹内 章（富山大），堤 浩之（京大），藤本光一郎（学芸大），吉岡敏和（産総研）

2) 大学評価学位授与機構より機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼

25年度，26年度実施分の委員として，10名以内を推薦するよう求められた。ただし締め切りが10月26日と迫っているため会長陣で候補者を検討し，理事会に報告することとした。

3) 連合経由で，男女共同参画学協会連絡会よりの科学技術系専門職の男女共同参画実態調査への協力依頼があった（実施期間11/1-11/30）。地質学会は連合の一員として協力することとし，会員にgeo-Flashで呼びかけることとした。

4) イタリア，L' Aquillaの被害地震に関連する裁判について情報交換をおこなった。

II 報告事項

（1）運営財政部会：総務委員会（西・山本）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. 猪俣道也会員よりINHIGE02011国際会議の最終報告（会計）があった。会議報告は既にNews誌4月号に掲載済み。

2. 第30回とやま賞の募集（11/22〆切）→HP，News，geo-flashに掲載

3. 三浦半島活断層調査会（会長茅野教幸）より，「第2回城が島観察会」の後援依頼について承諾した。→HP，News，geo-flashに掲載

<その他>

1. 東大海洋研究所より平成25年度白鳳丸の共同利用募集案内（〆切10/31）→HP，News，geo-flashに掲載，淡青丸は，平成25年1月をもって運用中止，後継船は建造中につき利用は25年後半以降の見込み。

2. 地学団体研究会よりの声明文「理科教育，特に地学教育の充実を！」，地学教育委員会にも回覧した。

3. 地球惑星科学連合の学協会長会議報告石渡会長（同会議議長），西理事より詳細な報告があった。

5. 学術会議の機能強化方策検討等分科会より，法人化に

関するアンケート、〆切10/31

<会員>

1. 今月の入会者 (3名)

正会員 (2名) 宇野宏司, 篠崎鉄哉,
正 [院割] 会員 (1名) 今井 遼

2. 今月の退会者 (1名)

正会員 (1名): 佐藤禮子

3. 今月の逝去者 (名誉会員1名)

飯山敏道 (2012年9月15日)

4. 9月末日会員数

賛助: 26 名誉: 71 正会員: 3984 (正会員: 3789, 正 [院割] 会員: 185, 正 [学部割] 会員: 10) 合計4081 (昨年比-61)

<会計>

・地質調査の研修について, 担当理事の提案による予算を検討し了承した.

・年会の収支概算について, 現状では多少マイナスとなる予想.

(2) 広報部会: 広報委員会 (内藤・松田)

・ジオルジュ2号の編集が終盤, 11月発行予定
・来年度のフォトコンテストの準備が進んでいる.

(3) 学術研究部会: 行事委員会 (星)

1) 大阪大会について

参加者800名, 発表数560件超と盛会であった. 巡検は1コースのみ荒天中止となったが, 他は無事に終了した. 大会報告記事はニュース誌11月号に掲載予定.

2) 仙台大会について

・巡検案内書編集委員会が発足し, 作業を開始した.
・シンポジウムとして下記2件を提案した.
・一般公開シンポジウム「東日本大震災あつとき, 今, これから」
・国際シンポジウム「環太平洋造山帯」
・大会業務委託および巡検旅行業務委託の業者を検討中.
・共催, 後援は各方面に依頼中.

3) 学術大会WGを立ち上げ, 年度末までに改革案を作成する. 人選は行事委員長が行う.

4) 第二回津波堆積物ワークショップ (堆積学会と共催) を開催し, WS69名, 巡検参加者18名が参加した.

5) 地球惑星科学連合の大会でセッション「人間環境と災害リスク」を共同コンビナーセッションとして共催を継続する.

(4) 学術研究部会: 国際交流委員会 (井龍)

(5) 学術研究部会: その他

・分析会社による同位体誤分析の情報を受け, geo-Flashを通じて会員に広報した. 地質学雑誌およびIsland Arcに誤分析に基づく論文がないか調査中である.

(6) 編集出版部会: 地質学雑誌編集委員会 (山路)

1) 編集状況報告 (10月10日現在).

・2012年度投稿論文 総数89編 [総説5 (和文5), 論説54

(和文50・英文4), 報告6 (和文6), ノート6 (和文6)] 口絵8 (和文5 英文3)・巡検案内書10

・査読中36編 受理済み 35編 (うち通常号18 特集号17)
・118巻10月号: 特集号「特集 火星探査計画における地質学者への期待」(世話人: 松井孝典・小松吾郎・後藤和久) (約100頁・校正中)

・118巻8号掲載の石田ほか論説 (p. 476-492) において, 校正ミスによる誤りがあり, 10月号に訂正記事を掲載.

(7) 編集出版部会: アイランドアーク編集委員会 (伊藤)

・編集状況報告: 過去半年の投稿数36件. うち新規投稿29件.

・Island Arc賞の選考始まる.

(8) 企画出版委員会 (山口)

・リーフレットの進行状況報告

以下のものが進行中である.

超地球史年表 (清川)

三浦半島の地質 (蟹江)

(9) 社会貢献部会 (高木・平田・中澤・保柳)

1) 「地質調査の研修会」の実施

・講師: 徳橋秀一会員および講師補助: 中島礼会員 (産総研) に対し, 依頼状を送付した.

・講師謝金等を含めた予算について検討し, 運営財政部会の了承を得た.

2) 来年度の地質の日の行事

・地質の日事業推進委員会の委員に中澤理事を選出した.

(10) ジオパーク支援委員会 (高木)

日本ジオパークに八峰白神, 湯沢, 銚子, 箱根, 伊豆半島が選ばれた. 隠岐は世界ジオパークの審査が行われたが指定は見送られた.

(11) 地学オリンピック支援委員会 (平田)

アルゼンチン大会開催. 日本代表選手は金メダル1名, 銀メダル3名

アルゼンチン大会にて東アジアの地質図を展示した. 国際地学オリンピックを2016年に三重県開催決定 地球にわくわく自由研究コンテストを実施する

(12) 震災復興事業プラン検討WG (高木・西・藤本・斎藤)

今年度の事業を実施中.

(13) 支部長連絡会議 (渡部)

大阪大会での会議にて, 学術大会の申し合わせと支部選出理事の選出方法について意見交換した.

(14) 地質技術者教育委員会 (山本)

大阪大会夜間小集会実施した. 各大学のフィールドワーク実習, 地質コンサルの採用, 公共事業の状況などの情報を交換した. 年2回程度会合を持ち, 随時メール会議を行う.

2012年11月10日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長 (代表理事) 石渡 明

署名人 執行理事 斎藤 眞